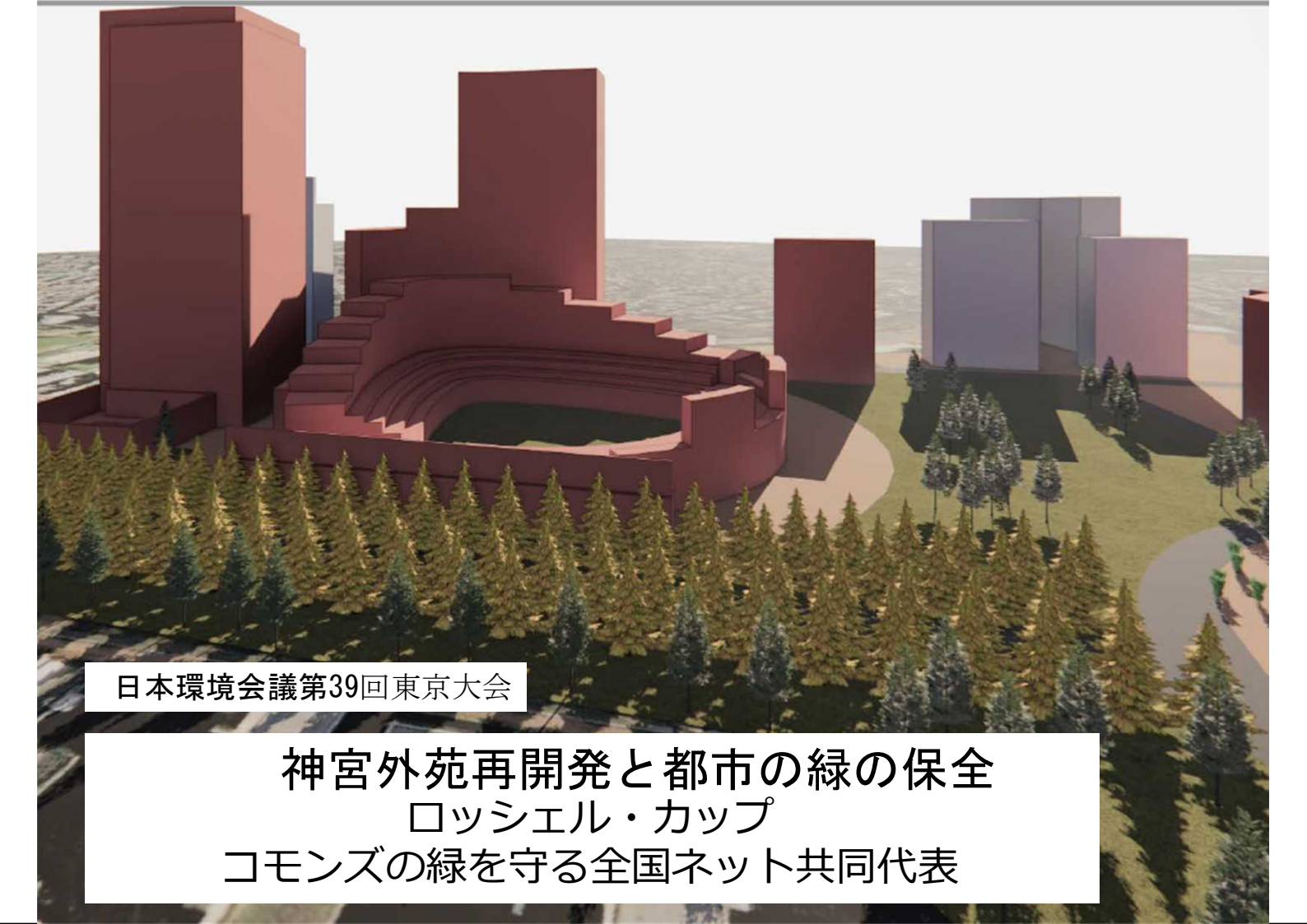




日本環境会議第39回東京大会

神宮外苑再開発と都市の緑の保全 ロッシェル・カップ コモンズの緑を守る全国ネット共同代表

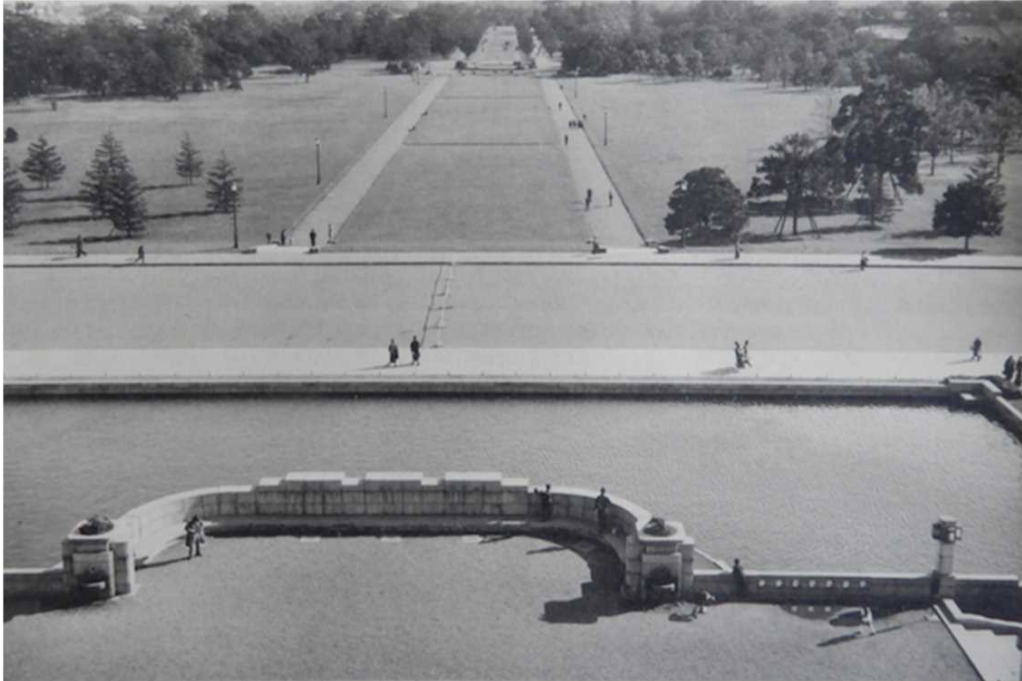


注目されている 神宮外苑再開発

で、発一外の賛し、界氏人ルの開く、
関記りテ内く動る界ッ各樹名グー議再多し、
機（国）かり国多活る界ッ各樹名グー議再多し、
問（国）へ、る署超にのて上る人シる外ト起し
諮議告トよ、を年氏い村す、ザよ宮クきま
の会警一にの署を氏い村す、ザよ宮クきま
ス跡たア4つ2023一続やと明サに神エ巻め
スICOMOS遺れアイ、32万龍に者め声、ズ、ジを集
ネる物さ・デ道の者坂一有はよ一タなプ論目
ユあ念出シメ報へ同たセのをにルス歌発の注

神宮外苑は、歴史的価値の高い特別な場所

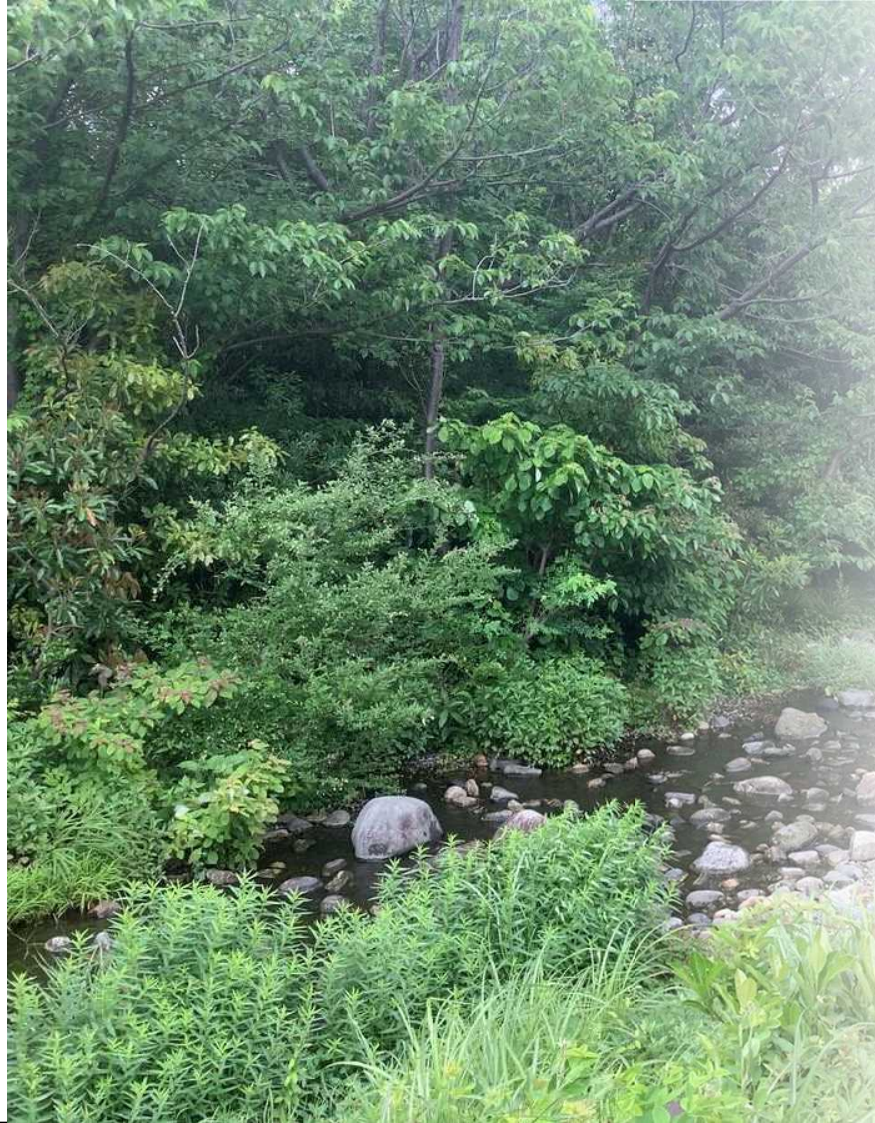
明治神宮外苑は、今から百年前の大正時代に、国民の献金、献木という、現在のクラウドファンディングのような民主的な方法で造られた、歴史的価値の高い都市資産です。歴史的なスポーツ施設や、イチョウ並木をはじめとする緑の環境は、憩いの場として長く市民に親しまれてきました。



環境を犠牲にする 再開発計画と 環境アセスの問題

環境アセスの基本的な役割は、開発事業による環境への影響を評価し、社会へ与える利益とバランスをとることですが、神宮外苑の場合では、東京都環境アセス審議会が示した懸念は無視され、環境アセスとして適正に機能していませんでした。環境アセスメントの世界的な学会「国際影響評価学会（IAIA）」、日弁連、そしてICOMOSからも、公式声明により非難されたことは、恥ずべき事態です。



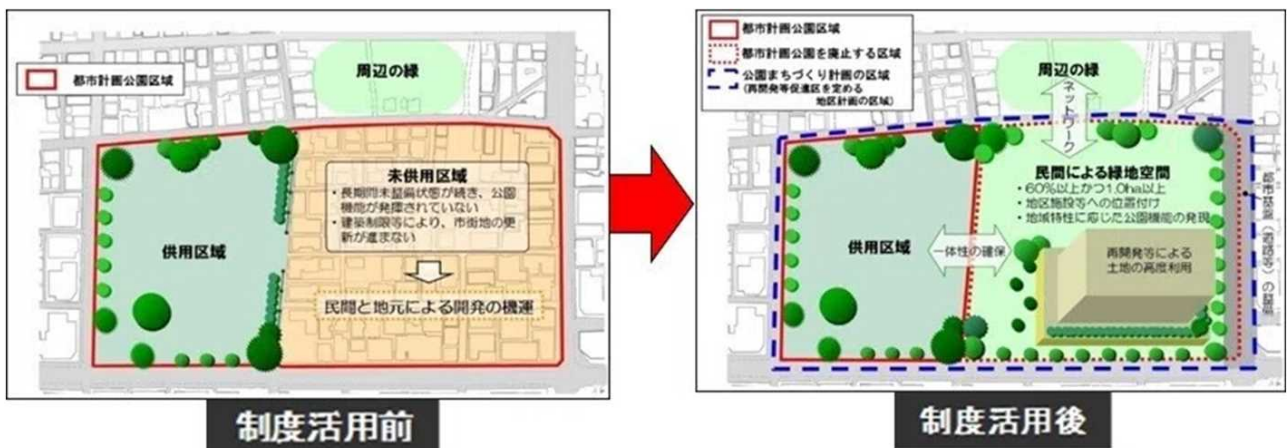


神宮外苑は全国で起きている再開発問題の縮図

神宮外苑再開発が多く注目と関心を集めているのは、神宮外苑という特別な場所に対する愛着があるだけでなく、日本全国で起きている、再開発問題の縮図だからです。事業者、行政、政治家が秘密裏に進め、計画が固まった段階で初めて公表するという、市民不在のやり方。利潤追求型の高層ビルや商業施設のために樹木や緑が犠牲になっています。「土地の高度利用」や「賑わい」を何よりも優先して、環境や景観、市民の生活をないがしろにしています。

歪められた都市計画行政

神宮外苑再開発は都が基本計画を発案し、都が策定した「まちづくり指針」に合うものとして都知事が認可し実施されています。計画進行のプロセスにおいて、事業計画に合わせたガイドラインを作り、区域を削除したり、条例を変更したり、事業者に便宜を図っています。このように歪められた都市計画行政は、非民主的であるといわざるをえません。



公園まちづくり制度のイメージ

都市の緑を守るため 法律を変える必要がある

神宮外苑で起きているような問題を防ぎ、緑の環境や景観を守るために日本の法律を変える必要があります。

環境アセスメントプロセスの改善、再開発での市民参加を推進する方式、緑地保全や樹木伐採の規制、景観を守る法整備が重要です。

